

論点 I (これからの電力の需要と供給のあり方)

- 東京における**エネルギー利用**について、中長期的に**電気の利用割合の増加**が想定される中、**産業面**などでの**電力の需要を抑える**ためにはどのような取組が必要となるのか。
- トランジション期において電力を効率的に利用するため、**熱のエネルギー**をどのように組み合わせて**活用**することが**効果的**か。**電力と熱の併用**や**断熱**の仕組みの充実による**電力利用の抑制**等に関してどのような工夫を行うことが重要か。
- 電力を発電所で作り送電する「**集中型**」の仕組みのほかに、様々なエリアで**蓄電池**などを整備しその電力を使う「**分散型**」の**システム**をどう**効果的に作り上げる**べきか。
- **再生可能エネルギーの導入**や**利用拡大**に向けて、その供給量の増加や減少に応じて電力の**需給バランス**を**調整**したり**コントロール**する**仕組み**をどう作り上げるべきか。
- 東京のような**大都市**が電力などの**エネルギーの需給**に関して対応を進める場合に、どのような**観点**や**発想**を**重視**するべきか。**国の政策展開**と**都の取組の役割分担**をどのように考えるべきか。
- 世界のエネルギー利活用の動きを踏まえた場合、**東京におけるエネルギーの需給のあり方**や**今後の展開**をどのように考えるべきか。

第2回東京都エネルギー問題アドバイザーボードにおける論点

論点Ⅱ（水素等のエネルギーとしての利用）

- 今回の国の**水素基本戦略の改定**についてどのように**評価**をするべきか。また、その**産業面**での**戦略的な展開**や**保安のルール作り**に関して**都政**としてどう**取組**を進めることが**適切**か。
- 水素の**利用**を**加速**するため、**大規模**なロットの**需要**や**少量**の**ニーズ**の積み上げなどを**効率よく速やかに**進めるにはどのような**対応**が必要か。
- 将来に向け水素を安定して**大量**に**低廉**な価格で東京で**確保**するため、**海外**や**国内**でどのような**ルート**や**サプライ・チェーン**を作り上げることが重要となるか。東京や川崎の**臨海エリア**での取組を**効果的**に進めるための**視点**や**工夫**はどのようなものか。
- 都内で様々な**モビリティ**向けに水素を供給する**ステーション**などの拠点を**整備**する場合の**考え方**や**手法**としてどのようなものが考えられるか。
- 水素の利活用に関連する様々な**設備**や**機器**に関わる**性能**の**レベル**を取り決める場合に**コスト面**を含めてどのような**視点**や**考え方**を重視するべきか。
- 水素のほか新しいエネルギーとして、**合成メタン**や**S A F**などの**利用**をどう**効果的**に進めるべきか。特に、新しいエネルギーの**価格**を引き下げ、その活用を広げていくため、**行政**としてはどのような**対応**が必要となるか。